

# ご 挨拶



早稲田大学産業経営研究所 所長 中 村 信 男

皆さん、こんにちは。産業経営研究所所長の中村でございます。

第23回産研アカデミック・フォーラムへお越しいただきまして、まことにありがとうございます。この早稲田大学産業経営研究所は、早稲田大学の産業経営の中心的な研究機関として1974年に設立されまして、今日に至るまで企業あるいは産業に関して幅広い領域の諸問題について精力的な研究を展開してきました。

この産研アカデミック・フォーラムは、主として学会の方々を対象にし、時代の先端的なテーマについていろいろな分野から報告をして、広い視野をもって検討することで問題の本質に迫るということを目的としてこれまで開催してまいりました。今回は第23回目を迎えますが、「21世紀の中央銀行」をテーマに掲げて、日本銀行、欧州中央銀行、国際決済銀行のそれぞれで活躍をしてこられましたセントラル・バンカーの方々をお招きして、現代の金融政策あるいは中央銀行のあり方をめぐる議論の最先端に切り込もうという企画であります。

皆様ご案内のように、中央銀行は発券銀行、政府の銀行、銀行の銀行として資本主義経済の中樞を担ってきたところですが、しかし、近年は政府からの独立性を求められながらもデフレからの脱却のための通貨供給や物価水準の維持・誘導などへのコミットメントが求められておりまして、その役割が徐々に変化を続けてきています。

こうした中央銀行の役割の変化を歴史的に振り返ってみて、今後21世紀における中央銀行のあり方を探ろうというのが今日のアカデミック・フォーラムの狙いだと考えています。そのような趣旨で今日のアカデミック・フォーラムが開催されますけれども、本日は皆様のお手元のパンフレットにも示しておりますように、基調講演者の白川先生をはじめ、錚々たる講師の方々にお越しいただいております。全体として大変有意義なものになると確信しているところです。

こういった素晴らしい先生方を招いて今日のアカデミック・フォーラムを開催できることになりましたのも、ひとえにコーディネータを務めてくださっている矢後和彦教授の努力のたまものだと考えておりまして、お礼を申し上げたいと思います。

本日は、これから始まりまして17時頃まで約4時間にわたる長い企画ですが、ぜひ最後までご清聴いただきまして、ご参加いただければ幸いです。どうぞ本日はよろしく願いいたします。

- ※当日、パネル報告を予定していた Tarisa Watanagase 氏は都合により欠席となりました。
- ※講演中、パワーポイントを用いた部分について、講演者・企業などの都合上、掲載していない箇所がありますのでご了承下さい。
- ※本報告書における Francesco Papadia 氏の発言は、Tuomas Valimaki 氏と共著で Oxford University Press から 2016 年に刊行予定の書籍の内容背景として準備されたものです。  
(Mr. Papadia's panel comment drew from material prepared as background of a book which will be published by Oxford University Press in 2016, co-authored with Tuomas Valimaki.)
- ※本報告書における Frank Packer 氏の発言は、Packer 氏個人の見解であり、国際決済銀行の公式見解とは異なる場合があります。